

## 示説4

### 西尾保健所における災害時保健活動体制整備への取り組み

#### ～関係機関と連携した個別支援計画の作成・避難訓練の実施～

○藤川<sup>ふじかわ</sup>のみ、平野井尚美、山本真祐、平岩知佳、松本華子、有川かがり、宇佐美毅（西尾保健所）

**【要旨】**当保健所管内は、南海トラフ地震による被害想定が県内最大で災害対策は喫緊の課題である。医療・介護関係者及び行政職員等が一堂に会し災害時の要配慮者の固有の課題と対策を共有することで、支援体制の構築に繋がる。

**【目的】**人工呼吸器等医療機器を使用する難病患者と医療的ケア児（以下、「患者等」という。）を対象とした「災害時個別支援計画のための検討会」と「避難訓練」から、災害時に患者等・家族、地域が抱える課題を抽出し、対策を考察する。

**【方法及び結果】**「検討会」と「避難訓練」を実施し抽出した課題の改善状況について分析した。

#### 1. 事例の概要（検討会は事例 A~D で実施、避難訓練は事例 A,C で実施）

	年代	病名	療養状況	医療処置	主介護者
A	50代	ALS	全介助	人工呼吸器・吸引・胃瘻	妻
B	70代	ALS	全介助	人工呼吸器(NPPV)・吸引・胃瘻・膀胱留置カテーテル	夫・長男
C	10歳未満	18トリソミー	全介助	酸素療法、経鼻栄養	父
D	10代	ミトコンドリア病	全介助	人工呼吸器・吸引	母

#### 2. 実施結果

##### (1) 検討会（表の太枠は3/4事例（75%）以上で△（一部着手）と×（未着手）であったもの）

〈時期〉 令和4年12月～令和5年10月 〈場所〉 西尾保健所、患者宅、オンライン等 〈参加者〉 患者家族、主治医、SW、相談支援専門員、訪問看護師、訪問リハビリ、医療機器業者、訪問ヘルパー、市町防災担当課・福祉課等		*検討会後の事例の改善状況：○（着手）、△（一部着手）、×（未着手）			
〈課題〉	〈対策〉	*検討会後の改善状況			
		A	B	C	D
①電源確保	電源の確保時間の確認 発電機・蓄電池の購入 中部電力への事前登録	○	○	△	○
②避難先	避難場所の決定、事前登録	○	×	△	△
③避難手段	担架利用、歩行避難等の検討 介助依頼	△	×	△	△
④避難先での生活	避難所の状況確認（個室・物品） 個別対応リストの作成	○	—	△	△
⑤持ち出し物品	持ち出し物品のリスト作成 分散配置	×	×	△	△
⑥安否確認	Web171*1、ANPY*2、市防災アプリの使用	○	△	○	△
⑦共助の為の情報共有	近隣住民への協力依頼	△	△	×	△
⑧受診の目安	主治医に確認（SpO <sub>2</sub> 濃度、痙攣等）	○	○	○	○

\*1Web 版災害時伝言板、\*2人工呼吸器メーカーのGPS通信装置

##### (2) 避難訓練（表の太枠は全事例で×（未着手）であったもの）

〈時期〉 令和5年6月～10月 〈場所〉 患者宅 〈参加者〉 患者等、患者家族、主治医、SW、相談支援専門員、訪問看護師、訪問リハビリ、訪問ヘルパー、市町防災担当課・福祉課等		*検討会後の事例の改善状況：○（着手）、△（一部着手）、×（未着手）	
〈課題〉	〈対策〉	改善状況	
		A	C
⑨居室の安全保持	ベッド周囲の安全確保、大型家具の固定、落下危険物の整理・固定、窓に飛散防止フィルム貼付	×	×
⑩避難経路	経路の安全確保、主要ルート以外の確認	○	○

##### (3) 患者・家族の声

「近所の人に助けて欲しいが、みんな自分が避難するのに精一杯で、私たちのことにかまっていられないと思う。」「患者等の介護で、日頃から近所の人との付き合いが少ないため、支援を頼みにくい。」

#### 【考察】

検討会と避難訓練で抽出した10項目の課題のうち、6項目で「自助・共助・公助」の視点から、今後も改善が必要と確認できた。自助として⑨「居室の安全保持」について、患者家族や支援者等と改善を進めていきたい。共助として⑤「持ち出し物品」⑦「共助のための情報共有」等について、患者家族と共に近隣住民に協力を呼びかけたい。公助として②「避難先」③「避難手段」④「避難先での生活」等について、市町担当者等と検討を重ねていきたい。また、避難訓練を行うことで、⑨「居室の安全保持」⑩「避難経路」等の新たな課題を把握することができ、避難訓練の有効性を感じることができた。今後も、患者等や家族の災害時の不安が少しでも和らぐように検討を積み重ねていきたい。



<検討会>



<避難訓練>